

現状課題

工業製品の異常を“音”で判断できる



問題点, 課題も存在

- 熟練者の官能評価が必要
- 常に監視できるわけではない



研究目的

機械学習を利用し, 音源データで
機械の異音検知を行う



異音検知に効果的な特徴量を選択,
モデルを作成する

研究内容

異音特徴量選択

周波数特性から特徴量を抽出



- ・ 機械学習による項目を選択
- ・ 経験や理論から項目を選択



影響度が高い特徴量を特定

異音特徴量モデル作成

異音特徴量モデルの
プログラミング



教師データを入力



学習済みモデルを作成

異音特徴量モデル検証

作成モデルの実証実験を行う



精度や実装状況の確認



正常・異常の判別成功率合いで
モデル検証